

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

|    |       |    |    |    |                           |
|----|-------|----|----|----|---------------------------|
| 氏名 | 鹿毛 美香 | 職名 | 助教 | 学位 | 修士 (医科学) (久留米大学 2008.3 月) |
|----|-------|----|----|----|---------------------------|

| 研 究 分 野                               | 研究内容のキーワード   |
|---------------------------------------|--|
| 看護学 産業保健学 労働衛生学 環境医学<br>公衆衛生学 公衆衛生看護学 | 労働衛生 ワークストレス 雇用不安 疲労蓄積<br>大学生の健康 現任教育 住<br>民の健康 保健行動 |

| 研 究 課 題  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働者の雇用不安やワークストレスを中心に労働と健康の関連について考察する.</li> <li>・産業保健師の活動実態の把握や産業保健活動展開に必要な能力等を含め現任教育のあり方や学士レベルで備えるべき能力等を考察する.</li> </ul> |

| 担 当 授 業 科 目   |
|---|
| 保健福祉学入門 (前期:保健福祉学部) 基礎看護学実習 I (後期;看護学科)<br>対象別公衆衛生看護活動論 I (前期;看護学科) 疫学 (前期;看護学科)<br>在宅看護学実習 (前期・後期;看護学科) 公衆衛生看護技術演習 (前期;看護学科)<br>地区活動論演習 (前期;看護学科) 公衆衛生看護学実習 (前期・後期;看護学科) |

| 授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)   |
|--|
| 授業科目名【 保健福祉学入門 】<br>1. 保健学の一領域である産業保健を活動の場でどのように活かしているのか、事例を通して実践的に捉えることができるように努めた。看護学科以外に栄養学科、福祉学科の学生対象であるため、管理栄養士や社会福祉士、精神保健福祉士など保健活動する中で、連携先の専門職となりうる仲間と学習していることを意識できるようにも努めた。  |
| 授業科目名【 基礎看護学実習 I 】<br>1. 学内実習において臨床現場を疑似体験できるように Simulated Patient を務めた。その際、科目責任者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。  |
| 授業科目名【 対象別公衆衛生看護活動論 I (産業保健・看護) 】<br>1. 産業保健および産業看護について、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、図式や画像を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした。また、産業看護の活動内容をより実践的に捉えられるようにペーパーシュミレーションを取り入れた。<br>2. 産業保健師の活動の一部を実践させることで、ペーパーシュミレーションで学んだ保健師として重要な視点や思考の仕方を定着させるよう試みた。今回は遠隔授業であったため学生自身の VDT 作業状況を振り返り、3 管理の視点で改善提案書を記録するなどした。                                    |
| 授業科目名【 疫学 】<br>1. 保健師 (主に行政・産業) が実践で活用頻度が高い調査方法や分析方法、また、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、ペーパーシュミレーションを取り入れた。<br>2. 協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるように以下のことを試みた。協同学習が未体験の学生を考慮し、まず Think-Pair-Share を用い、グループの構成員を学習内容の難易度に合わせ変更した。<br>3. 授業資料の 1 枚目には、毎回、新人保健師の疑問と先輩保健師の応答をイラスト形式で載せ、今から行う学習が実際の現場でどのような疑問の解決へとつながるのかイメージできるように試みた。 |

4. 今年度より、保健師課程以外の学生も受講できるようになったため、看護師として働く中で今回の演習内容が役立つのか等も提示しながら、現場との連動を行った。

授業科目名【 在宅看護学実習 】

1. 病棟実習とは違い、療養者の生活の場に看護者が伺うということがどのような意味を持つのか、また生活経験が少ない学生に対し、生活に必要なしきたりなども含め学生に対する実習前の指導に時間をかけた。
2. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
3. 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
4. 学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場面を再構成しやすいうようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
5. 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけよう調整し、学生がイメージしやすいうように心がけた。
6. 実習目標達成および学生の実習意欲向上を目指した教育的支援のあり方を実習中も時間をとり、在宅看護学領域の教員間で検討を重ね、指導の方向性を調整した。
7. 遠隔および学内実習の際には、1.～6.を踏まえ、療養者の生活の場に伺うことができないデメリットを補うために動画共有サービス（プラットフォーム）等を活用し、動画映像によるイメージ化を図り、尚且つ、可能な場合は実習指導者を介して療養者の生活の場を撮影してもらいながら訪問の疑似体験ができるようにするなど工夫した。

授業科目名【 公衆衛生看護技術演習 】

1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2. 地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、共同学習のメンバーを実習メンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
3. 家庭訪問技術に関しては、実習で必ず経験する新生児～4 ヶ月児までの母子への訪問を題材とし、電話によるアポイントから次の訪問の予約まで、一連の流れをロールプレイ形式で行うことで、この科目の学習と実習との連動を図った。
4. 母子以外の家庭訪問および保健指導事例に関しては、現場で想定される多問題ケースや困難ケースを題材とし、解決方法・支援方法が一つではないことを意識づけさせるよう試みた。これは、最近の学生が正誤にこだわるところを打破したいための策である。
5. 健康教育（集団）では、地区活動論演習と連動させ、学生が実習を行う地域の健康課題から健康教育のテーマを決めるなど、何のために健康教育をするのかを意識づけさせ、教育スキルだけを学習するのではなく、保健活動の一部であることを踏まえた教育ができるよう演習組み立てを行った。
6. 遠隔演習のメリットを活かし、保健活動現場でも行っている web 会議アプリを使った web 健康相談や健康教育を体験させるなど、社会動向にあわせた活動スキルを養えるように演習組み立てを工夫した。

授業科目名【 地区活動論演習 】

1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2. 地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、共同学習のメンバーを実習メンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
3. 保健師に必要な情報収集能力を獲得できるように演習に必要な情報については、学生が実習を行う地域を題材とし、この科目の学習と実習が連動するよう試みた。

授業科目名【 公衆衛生看護学実習 】

1. 実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
2. 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
3. 学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場面を再構成しやすいうようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
4. 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけよう調整し、学生がイメージしやすいうように心がけた。

5. 講義時に作成した教科書・ワークシートを実習時には学生に携帯させ、知識の振り返り先を明確にした。
6. 遠隔および学内実習の際には、1.～5.を踏まえ、活動の場に伺うことができないデメリットを補うために動画共有サービス（プラットフォーム）等を活用し、動画映像によるイメージ化を図り、尚且つ、卒業生の協力を得、生活の場を撮影してもらいながら乳児訪問の疑似体験ができるようにするなど工夫した。

授業科目名【 その他 】

1. 自分自身が看護職として、学生のロールモデルになるよう自己研鑽に努めた。

学 会 に お け る 活 動

| 所属学会等の名称                                  | 役職名等（任期）                           | 加入時期                           |
|---|------------------------------------|--------------------------------|
| 日本産業衛生学会                                  | 代議員（2008年11月～）<br>倫理審査委員（2018年1月～） | 2003年4月～現在に至る                  |
| 日本産業衛生学会産業看護部会<br>日本産業衛生学会九州地方会産<br>業看護部会 | 役員幹事：広報担当（2006年4月～）                | 2003年4月～現在に至る<br>2003年4月～現在に至る |
| 日本公衆衛生学会                                  |                                    | 2008年4月～現在に至る                  |
| 日本産業保健師会                                  |                                    | 2013年1月～現在に至る                  |
| 日本産業看護学会                                  |                                    | 2014年4月～現在に至る                  |
| 日本公衆衛生看護学会                                |                                    | 2015年5月～現在に至る                  |

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

| 著書、学術論文等の名称                          | 単著・<br>共著の別 | 発行又は<br>発表の年月 | 発行所、発表雑誌等<br>又は発表学会等の名称 | 概 要   |
|--------------------------------------|-------------|---------------|-------------------------|---|
| (著書)<br>特になし                         |             |               |                         |   |
| (学術論文)<br>ある末期がん患者の経験から考える意思決定支援のあり方 | 共           | 2021. 3       | 西南女学院大学紀要<br>Vol.25     | ①がん患者の語りをまとめた事例報告である。対象は60歳代男性で、胃がんの末期患者であった。ギアチェンジ期の前後において、療養中の出来事と経験の意味を明らかにすることを目的とした。対象の語りから8つの出来事と20の経験が抽出された。<br>②石井美紀代、水原美地、中山昌美、吉原悦子、鹿毛美香<br>③pp23-32 |
| (翻訳)<br>特になし                         |             |               |                         |   |
| (学会発表)<br>特になし                       |             |               |                         |   |

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

| 研究題目 | 交付団体 | 研究者<br>○代表者（）内は学外者 | 交付決定額<br>(単位：円) |
|------|------|--------------------|-----------------|
|      |      |                    |                 |

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

| 研究題目 | 交付団体 | 交付決定額<br>(単位：円) | 備考 |
|------|------|-----------------|----|
|      |      |                 |    |

社会における活動等

| 団体・委員会等の名称<br>(内 容)  | 役 職 名 等 | 任 期<br>期 間 等  |
|--|---------|---------------|
| ◎ (公社) 日本産業衛生学会<br>・ 学会員から研究等の遂行に当たり倫理的な要件を満たしているかどうか協議する。また、審査を受けるまでの相談等を受ける。   | 倫理審査委員  | 2018年1月～現在に至る |
| ◎ (公社) 日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会<br>・ 九州地方にて就業する産業看護職に対する研究会および研修会を開催する等、現任教育に努める。また、役員として現場の看護職からの相談等を受ける。<br>・ 産業看護部会本部（全国）と協働し、産業看護職に関する法改正等がある場合は、現場より意見を集約する。 | 役員幹事    | 2006年4月～現在に至る |

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

|              |                 |
|--------------|-----------------|
| ・ 実習コーディネーター | 2016年4月～2021年3月 |
| ・ 生協理事       | 2012年5月～現在に至る   |